

暑い瞳

うるま市立
平敷屋小学校
幼稚園
発行
校長
高良孝志

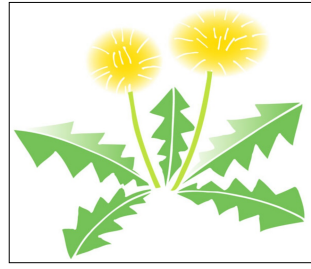
平成30年度が スタートしました。

さわやかなうりずんの心地よい風が吹くなか、平敷屋幼稚園・小学校の入園式・入

学式を滞りなく終えることができました。幼稚園・小学校に新しい先生方と入園児32名、児童39名を迎え、元氣いっぱい笑顔いっぱい、平成30年度がスタートしました。

入学式ではうるま市教育委員会の教育長職務執行代行の大石英助様、与勝第二中学校の上里厚校長、

交通安全と「生き生き登下校」の徒歩登校推進の取組が始まりました。



春の交通安全期間中には早朝から平敷屋自治会職員による通学路での安全指導の協力もいただきました。

子どもたちの活躍

- 平敷屋小学校女子バレーボール
平成30年3月3日
第13回うるま市小学生バレーボール大会
5年生の部4位グループ優勝
- 平成30年1月28日
第29回MOA美術館
全国児童作品展
絵画の部 銅賞 4年 仲里珠理
国内外より319,084点の応募作品から、
沖縄県では仲里さん一人が選ばれる。
- 平敷屋ホープ
平成30年3月18日
平敷屋地区同期・合同チーム対抗ソフトボール・野球大会 準優勝
- 平敷屋小学校
平成30年2月27日
うるま警察署より感謝状
警察署の広報活動への協力や地域の防犯思想の高揚への貢献

今年度も「生きる力」の育成をめざし、「自ら学ぶ子(知育)」「思いやりのある子(徳育)」「強くなった(体育)」

「大阪桐蔭高校野球部の西谷浩一監督」先日、史上3校目となる春のセンバツ連覇を果たされた西谷監督が人間性の大切さについて語られている記事を読みました。(以下記事より抜粋)

野球だけ頑張っていて、寮ではだらしがないという子は周りから認められませんし、強くなれません。集団生活というのは自分のすべてがさらけ出されるごまかしの利かない世界であり、その点がチームづくりプラスに働いているのではないのでしょうか。

感謝と努力・謙虚な心

寮は自己を鍛錬する場であると位置づけ、「自分のことは自分でする」というルールを設けています。

1年生が3

頭著な例は、毎年4月に入部してくる約20名の1年生のほとんどが野球ノートに親への感謝の言葉を綴っていることでしょう。

いままでは家に帰るとご飯が食卓に並べられていて、食べ終わったら食器を下

「大阪桐蔭高校野球部の西谷浩一監督」年生のお世話をすることは一切ありません。15歳で親元を離れて集団生活をするわけですから、最初は苦労もありますが、その分、家については学べないことも数多くあります。

時間をみつけて練習するかを自分で考えて行動する自己経営の習慣が身につくようになるのです。

そういう状態で寮に入り、食事はつくってくるとはいえ、自分たちで配膳して、食べ終わったら食器を洗って、洗濯物を干して、部屋の掃除をして、布団を自分で上げて、スパイクを磨いて、道具の手入れをして、学校に行く用意をする。

これは野球で勝つために、あるいは将来社会に出て活躍するために、非常に大事なことだと思えます。

それだけでも大きな成長ですが、3か月ほど経つと、1日24時間をいかに有効に使うか、無駄な時間をなくすか、隙間

常に感謝と努力そして謙虚な心はどの子どもたち、大人にも通じるものですね。参考記事・月刊誌「致知」より